

報告

第 16 回北東 3 地域本部技術士交流研修会 in いわき 「地域の復興・再生」

森 隆 広

1. はじめに

第 16 回北東 3 地域本部技術士交流研修会が、去る 11 月 21 日(木)福島県いわき市内のスパリゾートハワイアンズで開催されました。天気にも恵まれ、研修会には、北海道本部からは能登本部長ほか 18 名、北陸本部からは大谷本部長ほか 14 名、東北本部の参加者を含め総勢 72 名の方々の参加となりました。

第 16 回目は、東日本大震災の復興が続く地域である東北本部が主催ですが、今回は福島県支部が中心となって研修会の準備・運営をされました。遠隔地からの参加者のために福島県支部では貸し切りバスを用意し、仙台駅から仙台空港を経由して会場のスパリゾートハワイアンズへの移動となりました。

以下に、その内容をプログラム順に報告します。

◆プログラム

- 研修会 テーマ「地域の復興・再生」
 - ・開会挨拶
 - ・地域本部長挨拶
 - ・基調講演
 - ・研修発表(北海道本部 2 編、北陸本部 2 編、東北本部 1 編)
 - ・閉会の挨拶
- 交流会
- フラダンスショー

2. 研修会(13:30 ~ 17:15)

(1)開会挨拶

まず、主催者を代表し吉川東北本部長が挨拶され、東日本大震災で打撃を受けた福島県に技術士の皆様が集まり、齋藤一彦氏による基調講演や研修発表を通じて、本研修会のテーマである「地域の復興・再生」について共に考える機会を用意させてもらったと述べられました。



開会挨拶される吉川東北本部長と会場風景

(2)地域本部長挨拶

残りの 2 地域本部からそれぞれ挨拶がありました。能登北海道本部長が挨拶に立ち、北海道から全部で 19 名もの参加となり、多くの技術士の参加となったことから本研修委員会の成功の予感と期待を述べられました。

続いて大谷北陸本部長が挨拶され、本研修会への期待の表れとして北陸から総勢 15 名が参加し多いと思っていたら、北海道の方が多かったのが驚いたという冗談の後、次回は北陸本部での開催なので今回同様多くの参加をお願いしたい、加えて、2 年後の技術士全国大会を富山で開催するのでこれについても多くの方の参加をお願いしたい、と期待を述べて話を結びました。



能登北海道本部長(左)と大谷北陸本部長(右)

(3) 基調講演

「震災復興のスパリゾートハワイアンズの役割」

常磐興産(株)代表取締役会長 齋藤 一彦氏

◆齋藤一彦氏のプロフィール

福島県いわき市生まれ。中央大法学部卒業後、常磐興産(株)に入社。観光事業本部ホテルハワイアンズ総支配人、取締役観光事業部長などを経て、2002年6月に代表取締役社長に就任。独創的なアイデアと行動力で温泉施設を全国区の温泉テーマパークに育て上げた。2003年「観光による地域再生のカリスマ」として国土交通省の観光カリスマに選定される。地域経済発展のため、2004年11月いわき商工会議所副会頭、2008年5月社団法人いわき市観光まちづくりビューロー会長など、観光振興事業の要職に就任し、現在に至る。



常磐興産(株)会長 齋藤一彦氏

齋藤会長による標記の基調講演の概要を以下に報告します。

①会社の生い立ち

社名を常磐炭礦(株)として明治16年創業、当時石炭は黒いダイヤと言われ、昭和26年の日経平均株価が150～160円に対し、常磐炭礦の株価は2,950円、日本で7位に入っていた。社員数約1万7千人、家族を入れると7万人の会社であった。その後の炭鉱の衰退と共に色々なセクションを分社していき、炭鉱労働者の雇用を確保するために1966年1月15日に常磐ハワイアンズを開業した。

②何故ハワイアンなのか

当時の副社長がホテルに客を呼ぶために何が必要か、世界を見て回った帰りにハワイに寄った際、打楽器の音が日本古来に繋がると言うインスピレーションから日本最初の娯楽センターとして始めた。

1988年にはサービス業として初めてデミング賞を受賞し、現在は世界一の露天風呂(浴槽面積男湯600m²、女湯400m²、合計1,000m²)を有し、今年の8月で客数の累計が6,000万人に達した。

③東日本大震災による被災、その時

東日本大震災が発生した時、約600名の客が東京に帰れなくなってしまった。齋藤社長(当時)は東京に居たので、お客様と社員の安全を第一に考え、全て現場判断で対応するように命じた。社員はバス20台を手配し、食料・飲み物を積んで3月13日早朝出発し、23時に東京駅に無事到着した時は齋藤社長がお客様を出迎えることができ、ホッとした。その客の中にたまたまマルポライターの清水一利がおり、後に「フラガール 3.11 つながる絆」と言う本を出版した。

④東日本大震災からの営業再開

3月25日東京で役員会を開き、商売よりこのままでは福島がダメになるので、復興のためにフラガールによる「全国きずなキャラバン」を決断。全て手弁当と言う条件の中、3班編成で行った。その後、4月8日の新聞に掲載され話題となり、各地では出演料の申し出もあったが断り、ボランティアを買った。震災復興に約40億円、休館中の諸経費を含めると催行までに約100億円かかった。2011年10月7日観光庁長官賞をレディ・ガガとフラガールが受賞。2012年2月に全面再開し、客数は概ね震災前に戻ったが、首都圏からの客はまだ厳しい状況である。

⑤スパリゾートハワイアンズの立ち位置

毎年百万人近い客を集めている施設は、三井グリーンランド(九州)、ナガシマスパーランド(三重県)、スパリゾートハワイアンズ(いわき市)の3ヶ所で、リピーター率がいずれも80～90%と高い。楽天イーグルスの年間経済波及効果は約200億円であるのに対し、ハワイアンズは約400億円、雇用効果は9千名である。

炭鉱労働者の雇用を守り地域と共に歩むことで始めたスパリゾートハワイアンズがここまで続けてこられた背景には以下があった。

- ・人真似しない(苦しくても自分たちでやる)
- ・大衆と共に歩め(「勤労大衆に娯楽を提供する」がモットー)

- ・「コストダウン」という言葉は使わない、「適正コスト」という言葉を使う。(なお、フラガールの維持費には年間 4 億円かかる、ハワイから呼ぶとこれが 1 億円で済む。しかし、苦しい時期でもそれは思い止まった、という話もあった。)

(4) 研修発表

北海道本部から 2 編、北陸本部から 2 編、東北本部から 1 編、合計 5 編の研修発表がありましたので、その発表概要を以下に示します。

①「北海道南西沖地震・奥尻町青苗地区復興計画の初期対応と実施について」

日本データサービス(株) 紺野 寛
(北海道本部／建設部門)

当時北海道庁職員として、土地区画整理事業の計画・調査・実施などを数多く指導してきた立場、経験から、奥尻町青苗地区復興計画素案の面的検討経過などについて説明する。行政や都市プランナーは、ゼネラリスト的な視点で、事業制度を熟知し、「バランス感覚」を持って整備手法の提案を行うなど、素案段階での初期対応の留意点などについて説明する。



北海道：紺野技術士

行政や都市プランナーは、ゼネラリスト的な視点で、事業制度を熟知し、「バランス感覚」を持って整備手法の提案を行うなど、素案段階での初期対応の留意点などについて説明する。

②「夕張市における都市マスタープランの策定」

一人人口減少時代の地方都市における集約型都市像の共有化に向けた計画的試みー

(株)ドーコン 生沼 貴史
(技術士補／建設部門)

財政再生団体である夕張市は、2011 年 4 月に都市計画マスタープランを策定した。本計画は、人口減少、少子高齢化が急速に進む中で、安心して



北海道：生沼技術士補

て住み続けられる持続可能な地域社会の構築に向けて、集約型の都市構造へ再編する将来都市像を市民と行政が共同で検討し、共有化を図ったものであり、その取組について説明する。行政依存の体質だった市民に参加の機会を仕掛け、段階的な計画づくりを行った経緯を報告する。

③「安全・安心な社会構築におけるトンネルの維持管理」

ジビル調査設計(株) 浅井 貞一
(北陸本部／建設部門)

福井県内の合計 162 本の道路トンネルの維持管理について、道路トンネル維持管理便覧から最新の総点検実施要領(案)による基準図書の判定基準を踏まえ事例写真などを用いて説明を行う。



北陸：浅井技術士

④「ケーソン中詰材撤去システムについて」

(株)本間組 西村 晋
(北陸本部／建設部門)

地震に伴う津波等により、防波堤ケーソンが捨石マウンドから傾斜滑落し、防波堤として機能しなくなるケースがある。



北陸：西村技術士

ケーソンを浮揚させて再据付を行った方が経済的な場合に行う効率的且つ確実な中詰め材撤去システムを開発したので、システムの概要と施行事例について報告する。

当社では同業他社との差別化を狙いとして自社技術開発の推進を行っている。

⑤「放射性物資による健康への影響及び除染の推移」

佐藤工業(株) 中嶋 威
(東北本部／建設部門)

原発事故により 2 年半経過した今なお、約 5 万 1 千人の福島県民が全国 46 都道府県に避難している状況が続いている。この事故に対する技術者の倫理観に対する評価を思いながら、原子力・放射線分野の門外漢ではあるが、原発事故を境に時系列で起きた事象を今までまとめてきた。それらを話題として提供する。



東北：中嶋技術士

皆さん、色々な視点・切り口からの発表を頂きありがとうございました。

(5) 閉会の挨拶

東北本部の長尾福島県支部長より、本交流研修会が初めてここ福島県で開催されることとなり、参加者が少ないのではないかと不安を抱えながら準備を進めて参りましたが、どんどん参加者が増えて、最後には窮屈な部屋割りになってしまったことを嬉しくもお詫びしての閉会の挨拶を頂き、本交流研修会が終了しました。



東北：長尾福島県支部長

3. 交流会(18：30～20：10)

今回は研修会終了後に入浴タイムを設けて、交流会は1時間15分後からのスタートとなりました。また、参加者はハワイアンズの浴衣姿での集合となり、終始リラックスした雰囲気での交流会となりました。



交流会風景

(1) 開会の挨拶

所用のため、交流会から参加された日本技術士会の吉田会長が来賓挨拶をされました。当交流研修会に会長として初めて参加し、かくも多くの参加者があることを知って嬉しい驚きを感じたことを述べられていました。



来賓挨拶 吉田会長

(2) 乾杯

続いて、清水敏男いわき市長が乾杯に先立ち、「復旧・復興を一日でも早く成し遂げるために技術士の皆さんのご協力をお願いしたい」と挨拶さ



乾杯 清水敏男いわき市長

れ、68名の参加による交流会が始まりました。

4. フラダンスショー(20：30～21：30)

交流会の後、スパリゾートハワイアンズの目玉であるフラダンスショーの会場に移動しました。ステージの真ん前の特等席に陣取り、本場以上の艶やかなショーを堪能し交流研修会が終了しました。



5. 津波被害地見学会(11月22日午前中)

翌日、説明・案内人として、いわき建設事務所復旧・復興部の芦野部長、佐藤課長がバスに同乗し、津波被災後「CSGを用いた堤防を整備した夏井海岸」や「薄磯・豊間土地区画整理事業」を見て回りました。



夏井海岸の事業説明を受ける参加者

6. おわりに

今回は、未だ震災の復興・復旧の途上にあるいわき市での開催となり、初めてスパリゾートハワイアンズを訪れましたが、齋藤会長はじめフラガールの皆様方から逆に元気とパワーをもらった感じでした。

最後に、主催者である東北本部の皆様、長尾支部長はじめ福島県支部の皆様には、交流研修会並びに見学会の準備と細やかな運営を頂き、この紙面を借りて改めて御礼申し上げます。

森 隆 広 (もり たかひろ)

技術士(建設／総合技術管理部門)

日本技術士会理事
北海道本部 事務局長
株式会社ドーコン

